

2020年11月20日

JICA

社会基盤部

運輸交通グループ 第一チーム

### 議事録

日時：2020年11月20日（金）16:00～17:45
件名：道路アセットマネジメントプラットフォーム 第2回国内支援委員会
出席者
別紙1の通り
場所：オンライン会議

## 1. 内容

### （1）2019年度道路アセットマネジメントプラットフォームの業務を報告

#### 【長井委員長】

多岐にわたって調査ありがとうございます。今後どうしていくかが大事で、フォローアップとレビューを必要な国に対してできる体制・制度となっているか、具体的に紹介して頂きたい。

#### 【金縄参事役】

今後プラットフォームの活動の中で、有識者、民間企業の方を現地に派遣したいと考えている。現地でODA事業で建設された道路インフラの損傷事案に対して適切なアドバイスが出来る有識者の方、当時建設をされた方、点検技術等有している民間企業の方等を派遣し、損傷・補修に対する助言・指導や維持管理に関する現地セミナーを実施するなどの活動をしていく。

成熟度評価については、技プロ終了段階で成熟度評価を実施し、C/Pが今後どういうところに注力しなければならないのかレーダーチャートを使って分かるようにしていく。課題別研修でも研修員に自己評価という形で実施してもらい、自己評価のデータを蓄積することで今後、新規技術要請等があった場合、どういう状況にあるのか、レーダーチャートを使って事前に確認することが出来るようにしていく。

#### 【長井委員長】

情報が集まってくる体制、横並びに見れる状況というのは素晴らしい。それを得た上で次に日本から何を出していくのか、次の支援に効率的に繋がっていけばよい。

海外、途上国の状況にマッチした国内の制度、技術を日本の管理者のレベルに応じて、どこにマッチングするかというのを考えながらあわせていくと、効率的に技術とか制度が日本から出しやすくなる。そういうところも睨んだデータ整理の仕方であれば、技プロを担当するコンサルがその一覧をもって、それぞれの国に合うような案が出せる。

国内のデータ整備は、そういうことも考えられているか？

【金縄参事役】

途上国と同様に知見・財政・人材に余裕がない国内地方自治体の取組事例は途上国においても活用が期待できるものであり、それらを蓄積しているところ。高速道路会社や国交省は十分な予算に基づいた取り組みであり、将来の目指すべき目標として紹介することは意義があるが、途上国では限られた少ない予算をいかに新規の建設と現状のネットワークの維持にかけるのかを考えなければならず、同じような状況下にある地方自治体の取組・経験は有意義だと思う。意見交換しノウハウや知見をプラットフォームに蓄積し、それをまた発信していきたい。

【長井委員長】

日本の地方自治体と海外を直接つなげるのはすごく難しいが、その間に JICA に情報が集まる場所があって、効率的に外に出していけることが日本の強み。土木学会もぜひ活用願いたい。

【大島委員】

点検自体は比較的实现可能である。予算が無くても見ることは可能。問題は見た後にその後どう直していくか？適切な方法でなければ逆効果になる。研修とか評価の中で財源を確保し、どう政府に説明していくのか、そのような能力、技術を研修するというのは考えられているのか？

【金縄参事役】

今の技術プロジェクトは、先ずは既存ネットワークを維持するために予算がいくら必要か把握するための点検、維持管理計画の策定を行っている。これができるようになった後、限られた予算の配分（新規建設/維持補修）を考え、予算状況に応じた維持管理レベルを検討するというのがアセットマネジメントの考え方だと理解しているが、まだここまで至ることはできていないのが現状である。

【JEXWAY】

技術協力プロジェクトの中でも、予算の確保あるいはその維持修繕の実践という仕組みを導入されていた国、あるいは基金をすでに設置されていた国はあった。

【大島委員】

ベストプラクティスが水平展開できるような研修内容にして頂きたい。

(2) 2020 年度道路アセットマネジメントプラットフォームの業務内容を報告

【藤木委員】

昨年度の調査で開発した成熟度評価方法の適用と改善は含まれているか？

【JICA】

4 か国を対象としており、海外渡航困難な情勢であるので遠隔にて成熟度評価を実施し、委員のご助言を頂きながら成熟度評価のブラッシュアップを図っていく。

(3) 長期研修員事業の現状、課題別研修およびその他 RAMP の活動に関する報告

【長井委員長】

インターンシップマッチングは出来そうですか？受け入れてくれる企業はあるか？

【金縄参事役】

受け入れについては企業から問い合わせがあり、受け入れ準備を進めている。今年度はウェブセミナー形式で長期研修員全員に配信し、12月中・下旬あたりに実施できないか検討したい。

【長井委員長】

来年度以降もぜひ日本の企業で経験してもらえると、その後、日本の技術の展開というのもやりやすくなる。ぜひ積極的に受け入れてほしい。

【藤木委員】

コロナでITに頼らざるを得なく、インターンシップは物理的に簡単ではないが、リモートでインターンシップに近いことをやれないこともない。実際にプロジェクトを進めるという観点から、リモートで実施すれば、当人だけでなくプロジェクトに参加する他の関係者も参加できる。組織として技術移転がむしろ可能になるのでは？いろいろなことを試す良い機会。

【JICA】

リモートによる実施でいろいろな方が参加できるメリットはあるので、今後も遠隔でできるところはメリットを使ってセミナーなど行っていくことも考えていきたい。

【信田委員】

広範囲な活動に敬意を表したい。点検、診断、措置、記録というサイクルを考えると、国内では、診断と措置が一番足りないのでは。

人材育成、技術の展開、あるいは技術基準類を整備する時に診断と措置が極めて重要であるというスタンスを忘れずに実施してほしい。診断が出来るようになるには点検が必要。診断結果を受けて次の措置が出来るという関係であるので診断が極めて重要な役割を果たすということを踏まえプログラム構成を考えて頂きたい。

土木学会ではメンテナンスを非常に重視した活動を行っている。インフラメンテナンス委員会を立ち上げ、健全性の診断、新技術の適用など繰り広げており、その一環としてHPを立ち上げた。メンテナンス講座も開設し地方インフラのメンテナンス講座を年度内3回行う。

【金縄参事役】

第1回のメンテナンス講座の熊本県玉名市役所はじめ地方の取り組みは大変参考になった。そのような機会を長期研修員の方にも提供できるよう調整していきたい。留学生セミナーについては、年が明けても対面方式で行うのは難しいと思っているので、ウェブ形式で地方自治体や民間企業の取り組みを紹介する形で来年3月にも調整したい。委員の皆さんからご意見頂きたい。

【長井委員長】

取り組みに賛成します。私も何かプレゼンの機会があればありがたい。

【信田委員】

賛成です。先般のミャンマーの時も120～130名が参加され上手くいった。ウェブでの情報発信や情報共有が上手く進められたらいいと思う。

【藤木委員】

賛成です。この時期はリモートスキルを上げていく良い機会となるのでは。

【金縄参事役】

来年3月の留学生セミナーは、ウェブセミナーの形で協力頂ける企業や自治体にも声がけし、半日程度2～3日でアレンジ出来るようにしたい。また参加者は土木学会を通じた方々、JICAの無償資金協力のJTSの留学生等に幅広く声掛けし、土木系の留学生が参加出来る機会を調整していきたい。

(4) 道路アセットマネジメントプラットフォーム 2021年度以降の予定

(5) ラオス国橋梁維持管理能力強化プロジェクト案件形成に関して説明

【大島委員】

ベイリー橋は本来仮設橋であるが、維持管理しながら途上国で恒久的に使っているという矛盾がある。ベイリー橋をいかに安く補修していくか、真剣に大学や企業も交えて考えていくと、ニーズに合った技術開発になってくるのではないか。

【金縄参事役】

途上国はベイリー橋から恒久橋に架け替える資金がないので、ベイリー橋を使わざるを得ない状況にある。途上国の実情を踏まえ、ベイリー橋の状況を適切に診断することで仮設橋を使い続けることが可能となるし、そうすると大島委員が言われた補強する手法、研究開発もまた必要となってくる。

ラオスの産学官連携専門家活動の中で土木学会とJICAの協力覚書に関し、信田委員へお願いさせて頂きたい。この専門家は長崎大学の研究成果の普及・展開や国内民間企業の活用できる技術を紹介していくとともに、まだ開発中の技術で現地（ラオス）でデータ収集（試験実装）したい技術があれば、是非ともラオスに紹介し、そこで技術開発を進めてもらいたいと考えている。JICAと土木学会の協力覚書の中の一つである、土木学会が実施する海外技術者派遣に関するJICA事業での受入としたい。日本人若手土木技術者育成にもつながる。日本人の若手技術者の派遣要望があれば、ラオスの技術プロジェクトで対応が可能。今後、モザンビークでも同じ形態の技プロを立ち上げ予定である。

【長井委員長】

とても良い提案。土木学会にとってもよい活動であり、企業からの資金の持ち出しが難しい場合は、土木学会からもサポートは可能。

【信田委員】

同感です。来年度にむけ研究助成公募も始まる。予算からのサポートも可能。長井部会として対応を考えるのもよい。

【長井委員長】

良い試みであり、土木学会側で若手技術者の枠を作るのもよいかもしれない。若手技術

者の武者修行のような展開を意識した枠。いい案。

**【金縄参事役】**

プラットフォーム活動の国内運営体制として位置づけている国内専門家を産学官連携専門家として今後のプロジェクトに派遣することを考えたい。ラオス・モザンビークの人は選は終わっているが、今後他の国でハイブリッド型を形成し、国内で研修を積んで各地域での産学官連携等の経験を積んだ方を専門家として派遣していく予定である。国内専門家は北海道（札幌）と沖縄で試行的に実施されるが、候補者となり得る人材がいれば推薦いただきたい。

**（6）委員の追加について。古木オブザーバーを委員委嘱させて頂く予定**

**【古木オブザーバー】**

外から期待してプラットフォームの活動を見ていた。土木国際活動分野としては画期的な取り組み、何か貢献できればと思う。

以 上

道路アセットマネジメントプラットフォーム  
第2回国内支援委員会

## 出席者名簿

委員長	長井 宏平	東京大学生産技術研究所 准教授
委員	藤木 修	一般財団法人日本アセットマネジメント協会 理事
委員	大島 義信	株式会社ナカノフードー建設 顧問、長崎大学 客員教授
委員	信田 佳延	公益社団法人土木学会 上席研究員
事務局	天田 聖	独立行政法人国際協力機構 社会基盤部 部長
	小泉 幸弘	独立行政法人国際協力機構 社会基盤部 次長
	金縄 知樹	独立行政法人国際協力機構 社会基盤部 参事役
	鈴木 雅弘	独立行政法人国際協力機構 社会基盤部 運輸交通グループ 第一チーム
	仁藤 健	同 上
	吉岡 七輝	同 上
	富重 博之	同 上
	和地 敬	同 上
	岡本 晃	日本高速道路インターナショナル株式会社
	森田 雅巳	同 上
	児玉 知之	同 上
	笠松 弘治	同 上
	長尾 日出夫	大日本コンサルタント株式会社
	長澤 源太郎	同 上
	松林 祥代	同 上
	辻 武彦	一般社団法人国際建設技術協会
	高橋 靖	同 上
	蔵元 利治	西日本高速道路株式会社
オブザーバー	古木 守靖	一般社団法人国際建設技術協会 技術顧問
	所澤 光	アジア科学教育経済発展機構 プロジェクト開発・推進部
	布施 真奈美	同 上

以上